

# 特集：動物園の野生動物保護

## 長野県内の動物園での多様な取組

市民に親しまれる動物園。ライオン、キリンやゾウなど異国の動物を身近に観察したり、ショーを楽しんだりするレクリエーションの場所でもありますが、近年では「いのちの博物館」として、環境教育、野生動物の保全、調査研究にも積極的に取り組んでいます。

今回の特集ではこれからますます重要になる「地域の動物を保護する」動物園の取組をご紹介します。情熱とやる気にあふれる飼育員さん、獣医師さんへの取材を通じて、これからの動物園の可能性を感じ取っていただければと思います。

(担当 北野聡・阿部勝彦)

### ①長野市茶臼山動物園



1983(昭和58)年、長野市有旅に開園。現在、レッサーパンダ、キリンをはじめ78種類の動物を飼育。地域の野生動物関連では、ライチョウ(スバルバル亜種)、サンショウウオ類、シナイモツゴ(魚類)などの保護繁殖活動にも力を入れています。入園料、大人500円、小・中学生100円。

シナイモツゴ水槽の前で  
獣医師の佐藤直也さん

### ②須坂市動物園

1962(昭和37)年、須坂市臥竜に開園。現在、ニホンジカ、ハヤブサなど55種類の動物を飼育。2001年に来園したアカカンガルー「ハッチ」がサンドバッグに抱きつく姿で全国的な人気者に。入園料、大人200円、小・中学生70円。



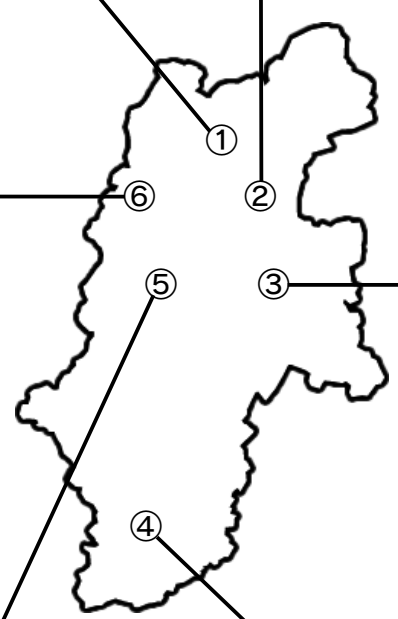
左より飼育ふれあい係獣医師の笹田和樹さん、同係長中澤雄一さん、同主幹の羽生田実さん

### ⑥大町山岳博物館・付属動植物園

1951(昭和26)年、大町市街地に日本初の山岳博物館として開館、1956年に現在の東山山麓に移転。「山博(さんぱく)」の愛称で市民に親しまれている。北アルプスを中心とする自然や登山についての充実した本館展示の他、「生きた学習・研究の場」として動植物を飼育・栽培する付属園が併設されている。本館観覧料、大人400円、高校生300円、小・中学生200円(付属園は入園無料)。



ライチョウ飼育に取り組む佐藤真さん(右)と宮野典夫さん(左)



### ③小諸市動物園

1926(大正15)年、小諸市の小諸城跡懐古園に開園。数匹のニホンザルの保護施設から始まった動物園では、現在、ライオン、ホンドテン、ケツメリクガメなど53種類を飼育。入園料(懐古園入園券と共通)、大人300円、小人100円。



飼育スタッフの  
佐藤清英さん

### ⑤松本市アルプス公園「小鳥と小動物の森」

1978(昭和53)年、松本市アルプス公園の一角に開園。ニホンザル、ニホンジカ、ポニーをはじめとする動物約50種類を飼育。入園料は無料。2014年トリップアドバイザーの「行ってよかった無料観光スポットランキング」でアルプス公園は全国11位。



飼育スタッフの内田忠良さん(右)と窪田佳祐さん(左)

### ④飯田市立動物園

1953(昭和28)年、飯田市街地のりんご並木の隣接地に開園。小動物中心のちいさな動物園ですが、カモシカ、ニホンジカ、ホンドタヌキなどの在来種のほか、アンデスコンドル、ミーアキャット、アメリカビーバーなど、県内では珍しい動物も飼育。2016年1月からスバルバルライチョウの繁殖飼育にも取り組む。入園料は無料。



飼育スタッフの前裕治さん

ここに示されたデータは2016年7月取材時のものです。